

目次

Book Expo America 2001	1
理事会報告・海外ニュース	3
委員会報告	4
新・パソコン外論考(其16)	5
出版文化史道遠(57) 洋書の歴史雑記帳(XII)	6
一つの言葉一つのきっかけ	7

Book Expo America 2001

〔1〕

全米最大の書籍見本市であるBEAが今年は6月1日から3日まで3日間ChicagoのMcCormick Placeにて開催された。今年のChicagoは例年になく肌寒く、会期中は日中でも15 ぐらいであった。

入場料が\$135(3日間有効、前売りは\$100)と、とても高額なので、混んでいないだろうとの予想に反し、会場には大勢の一般訪問客が開門を待ちうけ、オープンと同時に一気に目当てのブースに流れ込んだ。その先はと見ると、いくつかのブースで著者によるサイン会が行なわれていた。

この展示会は秋冬の新刊書発表やセールスキャンペーン、著作権交渉などが行なわれる通常の展示会である反面、出版・書籍販売業界のお祭りのような面もあり、このような人寄せイベントが豊富である。いかにもアメリカらしいが、パンフレットにはさまざまな作家を交えた食事会といったものから、チャリティーコンサート、テーマをもったセミナーなどイベントが盛りだくさんである。(セミナー類は5月30日から6月3日まで行なわれ多くは有料である。催し物を数えてみるとざっと500程もあり、そのおかげか一般公開初日の6月1日には歩くことも大変なくらい会場は混雑して

いた。今回のセミナーの傾向としては「如何にEコマースと共存するか」「デジタル流通のもたらす著作権問題」「オンライン販売導入による書店売上向上作戦」などが多く、最近の米国市場の関心事を反映していると思われる。

全てに於いて規模が大きく、ブースも工夫を凝らしており、とても1日では見終わらない。(出展者によると、今回の展示者2000社)

昼時ともなれば席を確保して食べることは難しく、スタンドで巨大なホットドックやブレッツェルを買い求めて立ち食いするしかない。見終わる頃にはカタログでいっぱいになり、宅急便で送るときに送料を見て驚くことになる。

全米全体の景気に陰りが見えはじめてつあるとはいえ、米国出版/書籍業界が新たな道を求めつつ依然として活況を呈していたように思われた展示会であった。

丸善学芸ナビ事業部商品本部洋書部 影山 伊和男



〔 2 〕

ブックエキスポ・アメリカに初めて参加した私に、なぜか原稿依頼が回ってきました。伝統と格式のある日本洋書協会会報に書くとはっては、冷や汗が出る思いです。上司に出す報告書ならナントカなるにしても、長年、洋書ビジネスに携わってこられたプロの方々が読まれるとはっては、大いに緊張いたします。皆様のなかには、数年に渡りこのブックフェアに参加して、商材開発や買付け、またアメリカ出版業界との交流を行ってきた方も多いかと思います。当社としては、そうした洋書取次ぎの各社の皆様に、出版情報を頼りにしてきました。だから初めてフェアに飛び込んだ私のようなシロウトでは、「見物」のレベルをまぬがれません。いっそ私としては、来年はじめて行く方々にシカゴ観光案内でも書こうと思いましたが、今回はニューヨークで開かれるそうです。

ご承知のようにブックエキスポは、もともと American Booksellers Association(ABA)の年1回の総会と展示会がその名称になっていました。商売に係る trade show は、6月1日から6月3日までの3日間ですが、じつはその前の2日間は、ABAの会員のための報告会や勉強会が行なわれています。私はツテがあって、各種プログラムにもぐりこむことができました。いや題名だけでも興味をそそられます。例えば「Brick & Clicks:How Do Retailers Best Use These New Tools to Sell More Books」これは従来型の書店がデジタル技術を活用して、オンライン受発注や在庫管理をどう行うか、またその未来像を探る、というパネルディスカッションでした。「Enhancing Your Bookstore Management Skills」の部屋では、ABA会員のインデペンデント系の書店が、どう売上を伸ばしたか、という事例報告が行われていました。アメリカ人は皆おしゃべりで、会議への参加意識が高いので、活発に議論が行われているという印象でした。印象? ...英語がもっとできれば、詳細に内容をレポートできるので残念です。ところであの有名な Barnes & Noble や Borders の名前を聞かないではないか、と思いましたが、よく考えるとこれら大型チェーン書店は ABA の書店と裁判沙汰になるほど仲が悪いので当然

でしたね。

さて肝心の Exhibition です。幕張の国際会議場よりは一見して広いと思われる、巨大な施設に2000社ほどの業者がブースを出しています。そこでつまり版權の売買、買付け、新刊・新商材の展示、及び各種商談が行われます。有名な著者のサイン会もあちこちで行われ、一種の社交場または業界のお祭りといってもよいでしょう。実際、土曜日の夕方には、各ブースでワイン片手に内輪で盛り上がっている状態でした。マジメに仕事するなら午前中のアポイントがよいと思います。ディレクトリーを頼りに、事前にチェックした出版社を回ったのですが、次第に疲労してきて体力勝負になってきます。何しろカタログを入れた袋を、両手に持って歩き回ることになります。宅配用の広大なスペースも用意されており、その机に各自ダンボールを置いてカタログを入れるのがコツのようです。

発表によれば参加者は21,898人(昨年より微増)とのことで、伝え聞くところ、去年の低調ぶりから活気を取り戻したとのことでした。またある批評によれば、Eブックはじめマルチメディア商材も、昨年の熱狂が fizz(シュウと泡をたてて消えた)など書いてありました。確かにあのサイン会の盛況ぶりを横目で見ると、Eブックでは、一体どこにサインしてもらうのか、などと妙な疑問がわいてきます。そう、数年来喧伝されてきたオンライン書店も、「本当に儲かるビジネス」を模索しているようです。やっと人々が冷静な目で見えるようになったというべきでしょうか。B to Bは、もはや Back to Basic(基本に戻れ)の略だ、という人がいます。新奇なアイデアがあれば飛びつく時代から、従来のマーケティング戦略の重要性が再認識されています。

さて、アメリカの出版流通をにわか勉強しました。いうまでもなく日本と違って再販制度がないので、「多様性」がキーワードになります。出版社から直接仕入れるルートがある一方で、もちろんアメリカでも取次ぎが大きな役割を果たしています。ブックエキスポでも大きなブースを広げていた、Baker & Taylor や Ingram という横綱級の取次ぎがある一方で、中小の出版社と契約し、書店への営業機能も備えた戦略的なディストリビューターがあると聞きました。この辺の事情は、じつはタトル商会社長・賀川 洋さんに教

えていただきました。賀川さんは、そのとても温かい人柄にもかかわらず、日本の洋書業界のあり方には厳しい目を持っておられます。その賀川さんの新刊をちょっと御紹介しましょう。「出版再生～アメリカの出版ビジネスから何が見えるか」(文化通信社)

書店もすべて取次ぎ任せではなく、自分の力で仕入能力を養わなければダメだ、という趣旨のお話をいただきました。私も激励のお言葉として受けとめ、業界の一員として新たな意欲を感じた次第です。

((株)三省堂書店 米国事務所 鈴木 修)



理事会報告

6月14日(水)

1. 指名理事就任要請の折衝経過に関する総務委員長および事務局長の報告を了承した。
2. 理事会運営体制について規約の見直しを含めた検討を9月以降に開始することとした。
3. 本年度の委員会は前年度の編成を踏襲することとし、担当理事会社を以下のとおりとする。

総務 = 洋販 / 会報 = 医学書院

広報 = 雄松堂書店 / 事業 = 日本出版貿易

ホームページ・ダイレクトリー = ユサコ

文化厚生 = U P S

委員会の在り方を見直し、改編案を本年度中に策定する。

4. 委員会委員は従来どおり公募とし、必要に応じて担当理事または委員長が指名する。
5. 2002年2月開催予定の台北国際図書館展 TIBE2002)で開設される「日本館」について、当協会に協力要請があり、催事委員会に事務局長が参画することを了承した。



◆ Reed の雑誌ボイコットさる

英米の科学者グループが、この9月よりReedおよびHarcourt GeneralのSTM系雑誌をボイコットすると宣言した。彼らは、商業出版社に無償で提供された研究レポートが、学術団体や図書館に高額で販売されていることに怒っている。Public Library of Science

(PLS)の圧力団体が出した公開状によると、世界各国の25,000名の研究者が、上記出版社の雑誌への執筆、編纂、書評、講読を拒否することと、今後六ヶ月以内に雑誌の価格を無料にすることが条件となっている。来週にもPublishers AssociationのJohn Davies、Director of Educational & Professional Publishingが、英国のSTM系雑誌の出版社と会って、この問題について話し合う予定。

theBookseller.com JUL 12, 2001

◆ フランスとスペインBOL閉鎖

Bol.frの共同出資者VivendiとBertelsmannは8月1

日、経営不振を理由に同サイトの閉鎖を発表した。これにより30名の従業員が職を失う。スペインのBol.esもまた同様の理由で今月末に閉鎖される。同サイトは1999年9月の開設以来これまでに1,480万ドル(29億ペセタ)の欠損を出した。どちらもBertelsmannが経営するブッククラブはウェブ経営を続ける。

世界第二の書籍市場であるドイツでは、Bol.com、Amazon.de、Buch.de等をはじめとするオンライン書店がしのぎを削っており、Buch.deのMr.Albert Hirsch、Marketing Directorによると「主要5社のうち生き残れるのは2社くらいだろう」とのこと。Association of the German Book Tradeによると、ドイツにおけるオンライン書店の売上高は2000年で総額3億7,800万マルクに上り、これは1999年に比べて129%もの増加とのこと。しかしながら、書籍全体の売上高の伸びは2.1%に止まり、それも書籍の値上が

りが主な原因である。オンライン書店による売上は、書籍市場全体から見ると、いまだ2.3%しか占めていないのが現状。

PW Daily JUL 13,2001

◆ インドで海賊版の摘発

ニューデリーで27,000冊もの海賊版書籍が押収された。これはインドでも最大規模の摘発。押収された海賊版にはMacmillan、Penguin、Oxford U.P.等の出版物が含まれ、グリシャムやバルダッチのベストセラー本、ローリングのハリー・ポッター・シリーズ、OUP辞書などがあった。今回の摘発(成果のあったもの)は今年2回目で、1月ムンバイで行われた摘発では25,000冊が押収された。

PW Daily JUL 16,2001

委員会報告 <文化厚生委員会>

フォーティ・ラブ箱根合宿報告 2001年6月9日

例年2回目の合宿は新緑の箱根と決まっております。今年度の新緑の箱根合宿は、6月9日、いつもの別荘地の中にあるテニスコートー明神平サニーパークで開催されました。私たちは池袋駅に8時に集合し、途中都内が渋滞していましたが、10時過ぎにはコートに立つことができました。例年6月9日が梅雨入りの平均値となるそうで、6月6日に梅雨入り宣言が発表された今年は、フォーティ・ラブの“悪運”も尽きたかと、少々観念をしていました。しかし、梅雨入り宣言後は、晴天の日が続き、まだ“良運”が保たれていました。かんかん照りとはいきませんでしたが、少し日焼けをする程度には晴れてくれました。本当に日頃の行ないが良い人たちが集まっているんです。

白さの残る紫陽花の咲く森の中からは、梅の咲く季節に練習不足となっていた鶯が数羽、鳴き声を出していました。(ひょっとしたら一羽かも知れません。確かめたわけではありません。)昼食後もコートの側にはクーラーボックスの中にビールが冷やされており、テニスをやるために来たのか、ビールを飲むために来たのか分からない人もいました。

午前中2時間、午後3時間でペアを交替しながら4~5試合するのが大体のペースです。あまり頑張りすぎると足腰にきて、月曜日に本が運べなくなります。試合の後は近くの温泉宿にて、ひと風呂あびて食事となります。(またビールを飲んでしまいます。)

そして、.....

ここで前年度の合宿地を並べてみます。4月は津久井湖、5月は箱根、8月は野田、9月は秩父(25周年パーティーをしました)12月に箱根、そして3月に湯河原と6回開催しました。結成25周年記念合宿を特別に行なったためですが、今年度は5回の開催にもどす予定です。あと3回しかありません。

次回は9月8日(土)に野田の名門クラブの野田ロイヤルSCテニスクラブの予定です。夕方からはバーベキューを楽しんでいただきます。サーフェイスは全米オープンと同じハードコートもありますが、今回はオムニコートにしており、足への負担も少なくてすみます。都内からはもらろん、大宮方面からも千葉方面からも手軽に行ける場所ですので、多くの方々の参加をお待ちしております。(東光堂書店 柴田厚生 記)



新・パソコン外論考(其16)

宇田川一彦

In the still of the night. / 夜の静けさの中で。

子之燕居、申申如也、夭夭如也、

During his leisure moments, the Master remained correct though relaxed.

(論語 / 述而・Confucius; The Analects / BookVII)

【超拙意訳；先生はお役所から戻られると、のびのびと、にこやかにくつろいでおられた。】

Internet に関して

▲久しぶりに、愛車を駆って、4泊6日という強行日程で、東京から京都に出かけてきました。

京都東急ホテルをベースとして、福井県立恐竜博物館(dinosaur.pref.fukui.jp)、吹田市の国立民族学博物館(minpaku.ac.jp)、そして宝塚市立手塚治虫記念館(city.takarazuka.hyogo.jp)、兵庫県立人と自然の博物館(nat-museum.sanda.hyogo.jp)、滋賀県立琵琶湖博物館(lbm.go.jp)、海遊館(kaiyukan.com/)と最後に梅小路蒸気機関車館(mtm.or.jp/)を取材してきました。:【http://www.は省略。要注意】

他に、なにわの海の時空館や大阪府立弥生文化博物館、池上曽根史跡公園 等取材をしたかったのですが、「金」と「時間」の都合で諦めました。残念。総走行距離1,840km。疲れしました。

この取材の依頼は、Internet経由のmailとファクシミリ(fax)で行いました。mailで「取材依頼」→「応諾」とfaxによる「博物館周辺の地図」などを送付していただき、日程を作成・取材という段取りでした。

ただ、このnet上のmailboxを、筆者は既述しましたように週に2～3回しか覗かない(access)ので、緊急かつ重要な日時に関するものは、文書による「fax」がまだまだInternetよりも正確迅速な「連絡網」と思いました。

取材をして、「Net上のVirtual-Museum(上述site)」で見ていた物よりも、数十段も「Real-Museum」の方が楽しいし、驚異のものでした。筆者イチ押しは「恐竜博物館」。これは、virtualでは味わえない物です。ただ、アクセスが大変ですが。二押しは、「琵琶湖」です。景観がいいのと、コンパクトに水族館の要素も入った総合博物館になっているのがいいです。ここで驚いたのが、見学に訪れた若い人達の言語。「中国語」と「韓国語」が飛び交っていたことです。日本語専修

の学生達の修学旅行とか。

で、無事自宅に戻った安心感からか、ボカをやりました。常用・愛用の、遠(distance)中(intermediate)近(rding=細かい文字の辞書も)「trifocal(3焦点)眼鏡」(rimless=縁なし)を踏みつづいたのです。

遠近のbifocalでは、中距離のパソコンのモニターが見えないので、原稿が書けない……。約1週間で前よりもっと小振りの上下幅35ミリの眼鏡(黒rim)を入手して本稿を叩いております。

Internet関係のパソコン英語*** (9-B)

まず、かつて本外論考・其11・昨年12号で、筆者が説明致した『【Re】=reply=返信』を訂正させていただきます。これは、明かな間違いでした。

と申しますのは、英国の友人からe-mailを貰いその中にあった1行で、頭をガーンと殴られました。

――I talk to you re your computer――

早速、愛用のRandomhouseの辞書にあたりました。【re】とは、そのまま省略語ではなく、発音も「リー」で、prepositior(前置詞)、with reference to = に関して、という意味。まったく、net上特有の省略語と勝手に解釈してreplyとしたこと恥じております。

本外論考・其11・昨年12号の正誤表；

【Re】= に関して、about / the matter

【Fw】= forward = 転送←これは、このままイキ

e-mailに関するsoftwareの「Outlook Express」で多少気になる訳語がついた送受信に関するものがあります。このメールソフトは、受取りメールは、「受信トレイ」、送信するメールは、「送信トレイ」に貯められます。

で、英語版のオリジナルは、

【inbox】= 受信トレイ(tray = 盆・箱)

【outbox】= 送信トレイ

です。これは、in-tray = 未決箱、out-tray = 既決箱からの転訳か？

最近、何かと話題の総理大臣の「メルマガ」。いわゆるMail Magszineです。これは、野球用語の「ナイト」最近では、アナもnight-gameといっていますが」と同様の和製英語です。

通常は、online newsletter とかonline magazineといっています。「オンレタ」とか「オンマガ」とかいうと何か不都合が？。

以下次号(乞御期待)

洋書の歴史雑記帳 〕津山藩と洋学の系譜(4) 鈴木 陽二

黎明期の洋学(3)

井上筑後守政重によって平戸のオランダ商館が廃止・破壊され、長崎出島へ強制移転させられたことは前回触れた。モンタヌス『東印度会社遣日使節行記』の挿絵を見ると、石垣で護岸した海沿いの広い敷地を占めて、瓦葺切妻屋根の洋風建造物が10棟ほど密集していて、この大規模な建造物を造ったオランダ人(オランダ東インド会社)の、日本貿易に寄せた大きな期待と高揚した気持ちが伝わってくるようである。それだけに、その後幕府の厳しい鎖国制度の中で、オランダ商館が耐えなければならなかった苦渋の歴史が、この絵を見るにつけ一層強く我々の胸を打つ。今平戸を訪れると、オランダ塀や、また商館のレンガ壁、常夜灯(常灯の鼻)、オランダ埠頭など、商館が存在したごく小さな痕跡を目にすることはできるが、オランダ商館が群れ建っていた当時の情景を空想するよすがもなく、400年の歳月をさかのぼれないもどかしさを感じる。平戸は、日本のどこもがほとんど経験したことのない、希有の歴史をもつ町である。しかし、オランダ塀の続く石段から町家の屋根ごしに広がる西海の輝きを見下ろすときなど、また、入江を挟んだ小高い岬の上に、司馬遼太郎が「景観の中の城として日本でもっとも美しい」と記した(『街道をゆく』11:肥前の諸街道)平戸城を望むときなど、あくまでも穏やかなその光景に、平戸がたどった数奇な歴史が本当にあったのだろうかと思えてくる。

さて、井上筑後守政重は鎖国政策の強力な推進者だったが、その反面西洋の先進的文化の受容に積極的で、洋書の入手に意欲的だった。特に西洋医学に強い興味をもって、オランダ商館に注文して医学書はもちろんのこと医療器具まで入手を図った。

彼が取り寄せた書物に、近代解剖学の基礎を築いたベルギーの解剖学者ヴェサリウス(Andreas Vesalius 1514 ~ 64)の著書“De humani corporis fabrica libri septem”(1543)も含まれていたようで、1654(承応3年)に入荷している(長谷川一夫「大目付井上筑後守政重の西洋医学への関心」/永積洋子「井上筑後守政重と蘭学」)。ヴェサリウスについていえば、加賀乙彦の小説『高山右近』に、天正遣欧使節が帰国のとき持ち帰り、使節の後見役だったポルトガルのイエズス会宣

教師メスキータが所蔵していて右近に見せるというプロットを設けている。出典不明のため紹介するだけに止めるが、もしこれが真実だとすると、使節帰国の1590(天正18年)という、極めて早い時代にこの人類史的名著が日本に入ったことになる。

井上筑後守は、さらに1660(万治3年)にはバレルの外科書(前回既述)を所有していたというが、この本は1650年代以前には既に日本に入っていたと想定されている(酒井シヅ「バレルと日本」)。ほかに、1652(承応元年)には蘭学史上最も有名な本の一つ『ドドネウス草木誌』を、1647(正保4年)には世界地図を入手している。地図は、オランダの著名な地図製作者ブラウ(Willem Janszoon Blaeu 1571 ~ 1638)の世界地図“Atlas novus”の可能性があるという。

1658 ~ 80(万治元 ~ 延宝8年)老中として在籍した稲葉美濃守正則も洋書の入手に積極的で、その中にはスピーヘルやレメリンの解剖書が見られる。スピーヘルの著作(Adriaen van den Spiegel “Opera quae exant Omnia” 1646)はそのころのヨーロッパの解剖学を集大成した程度の高い医学書で、図版も多く含まれていたという。またレメル(Johann Remelin)の解剖書“Pinax Microcosmographicus”(1667)は入門的なもので、1682(天和2年)にオランダ通詞本木庄大夫が『阿蘭陀経絡筋脉臟腑図解』として訳し、日本における最初の翻訳医学書となった。

『ドドネウス草木誌』と並んで日本の博物学史上忘れてならないのは、ヨNSTON(Johannes Jonstons 1603 ~ 75)の『動物図説』(1660)であるが、これは1663(寛文3年)にオランダ商館長ヘンドリック・インダイクより將軍家綱に献上している。恐らく、寛文2年には日本に入ってきたものと想定されている。この献上本は後年吉宗の代に野呂元丈が翻訳を手掛け、1741(寛保元年)『阿蘭陀禽獸蟲魚和解』として上梓した。野呂元丈(1693 ~ 1761 = 元禄6 ~ 宝暦11年)は江戸中期の医師・蘭学者・本草学者で、吉宗の命で青木昆陽とともにオランダ語を学び、ヨNSTONの翻訳はその結実で、日本の洋学の発達に大きな影響を与えた出版物として評価されている。〔参照文献:酒井シヅ『日本の医療史』/岩生成一「オランダ史料から見た江戸時代初期西洋医学の発達」(元丸善・本の図書館長)

大学に入ってきた新入生に、大学は自ら問題を見つけ、自ら解決しようと努力するところであり、そのために図書館があり、先生がおり、先輩がいるのだということをオリエンテーションの時に伝えるのだが、今の新入生にはこのような抽象的な言い方では腑に落ちないようだ。もうちょっと具体例がほしいらしい。

内地留学制度である中学の英語の先生が大学に1年間研修で来られたことがあるが、その先生の辿った研究の軌跡を話すと新入生もやる気を起こすようだ。その先生は誕生日が11月なのに、どうして英語では9を意味する November というのか不思議に思った。9月は7を意味する September、10月は8を意味する October、12月は10を意味する December ... と言うふうに2ヶ月のずれがある。

それがきっかけとなってその先生は語源に興味を持ち始め、1年間研修の終わり頃には、英語教科書に出てくる単語の語源についてはドイツ語かラテン語かそれともそれ以外の言語から来ているのか全てに精通し、「語源博士」の愛称で呼ばれるようになった。fatigue, police, garageなどのアクセントがそれぞれ第2音節に置かれている理由はフランス語からの由来であることや、honest, hourなどの出だしのhが発音されないのは同じくフランス語からの由来であること、また、neu, alt, uber, durchなどはドイツ語であるが、それぞれ英語の new, old, over, through などに対応するほど、英語に近いことにも気づかれた。

さらに発展し、日本人が英語を学習する過程での困難さはヨーロッパの子供たちが英語を学ぶよりもたいへんな困難なことであることも実感された。現在はその先生は帰郷後、教育委員会に務められ、若い英語の先生方のよき相談相手になられている。

現在は英語が情報伝達の手段として重視され、そのスキルの面が問われている。TOEICやTOEFLなどの得点が広く英語の運用力を測る目安とされて久しい。ただし、高得点が必ずしも英語運用力を反映するとは限らない。コンピューターの制約のために、話したり、書いたりするプロダクションの英語力を測っていないのである。

「急がば回れ」の諺があるが、英語の運用力は一つ一つの言葉からその意味を深く追求してこそ運用力の基礎力を培うことになるように思われる。何千語覚えれば何級という話をよく聞くが、実際は単語は草木の根のように四方八方に張り巡らされていて、それらの関係を些かでも知り、操作できるようになってこそ英語の本当の力がつくのではないかと思う。便利な英和辞典に甘えていては、いつまで経っても、英語力に自信がもてないのではないかと思う。

授業中にたまたま accumulate という単語が出てきた。昔だったら、「積み上げる、蓄積する」という訳が出来たならそれで満足して次へ進んだかもしれない。しかし、もう一歩進んで、やさしい英語で母親が子どもに説明するときはどう言うだろうか。形容詞的用法はないだろうか、名詞はどうか、-ate で終わっているが、appreciate, approximate, educate, estimate, repudiate などすべて、動詞であり、separate のように形容詞と動詞と -ate の発音が異なるのは他にあるだろうかなどと学生たちと考えてみた。

accumulate の同意語には、amass, assemble, bring together, build up, heap up などがあるが、16個の同意語をやさしい定義語を用いて、(It means) to collect a large number of (things) over a long period of time (CIDEの引用)とも言える。

形容詞形の accumulative は、地球温暖化やオゾン破壊、車の排気ガスの汚れなどは人体に cumulative effect (蓄積する悪影響)があるとも言える。

学生に和訳させるだけでは、TOEICやTOEFLの得点に結びつかないだけでなく、英語の背景的知識や文化面への関心を高めることにならないのではないかと思う。英語を英語で考えさせることによって、学習者がことばの世界に目覚め、ことばを駆使してどしどし自由に使ってみたい子ども心を蘇らせることができれば教師として満足してもよいのではないだろうか。

(茨城キリスト教大学教授)

一つの言葉 一つのきっかけ

島岡 丘

FRANKFURT BOOK FAIR

～2001 フランクフルトブックフェア 視察のご案内～

《 ご案内 》

本年度 10 月にドイツ・フランクフルトにて世界最大規模の国際書籍展「フランクフルト・ブックフェア」が開催されます。弊社では、毎年、この時期確保困難なフランクフルト市内のホテルをご用意し、多くの書籍出版関係の方々にご利用頂いております。今回も、この見本市を短期間にて視察するコースをご用意致しましたので、ここにご案内致します。

《 航空券 + ホテル 5泊7日 料金表 》

インターシティー ホテル 利用 ★★★	ツインルーム利用
中央駅そば、見本市会場まで徒歩約 10 分に位置する。	¥250,000
コンチネンタル ホテル 利用 ★★★	ツインルーム利用
中央駅そば、見本市会場まで徒歩約 15 分に位置する。	¥248,000
エクセルシオール ホテル 利用 ★★★	ツインルーム利用
中央駅そば、見本市会場まで徒歩約 15 分に位置する。	¥250,000
ホテル モノポール 利用 ★★★★★	ツインルーム利用
中央駅そば、見本市会場まで徒歩約 15 分に位置する。	¥270,000
アラベラ シェラトン コンGRES ホテル 利用 ★★★★★	ツインルーム利用
見本市会場まで市電にて約 20 分のファーストクラスホテル。	¥275,000
アラベラ グランド ホテル 利用 ★★★★★	ツインルーム利用
市の中心に位置し、便の良いデラックスクラスホテル。	358,000

※ 上記料金はお二人部屋ご利用時のお一人様当たりの料金です。お一人で一部屋ご利用される場合には別途追加料金がかかります。お日にちの変更・ホテルの変更等も可能です。詳しくは担当者までお問い合わせ下さい。

企画手配 / 株式会社 ジェイワールドトラベル

JATA正会員 (国土交通大臣登録旅行業第1359号)

★ お申込・お問合せ ★

TEL : 03-3402-9955 E-mail : tet@jw-trvl.co.jp 担当 : 藤代